

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：14501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K20066

研究課題名（和文）不確実性を生き抜くための親族ネットワーク - バングラデシュの首都ダカの仕事と共同

研究課題名（英文）Kinship Networks for Surviving Uncertainty - Work and Cooperation in Dhaka, the Capital of Bangladesh

研究代表者

鈴木 亜望（SUZUKI, Ami）

神戸大学・国際文化学研究所・学術研究員

研究者番号：70913698

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、バングラデシュの首都ダカにおける仕事をめぐるジェンダーと扶助と共同の関係を明らかにすることを目的とした研究である。ショッピングモールでの民族学的調査に基づき、仕事を紹介する際には近隣の人のように弱い紐帯も積極的に活用されることが明らかとなった。親族に頼ることは複雑なポリティクスに巻き込まれることにもなるからである。他方、仕事場の中で新たな親しい関係が出来上がっており、労働市場への参入を斡旋することだけが重視される関係ではない。流動的な関係と労働の場は、新たな不確実性を増しながらも、そうした都市生活を生き抜くことを可能にするようなネットワーク構築の場そのものであることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで十分に議論されてこなかったバングラデシュの都市の低中所得者女性のサービスセクターを対象としており、民族誌的資料として価値がある。これまでバングラデシュの女性研究は農村の既婚女性が中心となってきたが、都市への人口流入や産業構造の変化が生じる状況で都市の低中所得者層の労働実態は当該社会の研究上のギャップを埋めている。また、ジェンダー規範のあり方について、都市空間と絡めながら議論をしている。仕事をめぐる分業や扶助における親族や諸関係が行為遂行的に立ち現れるものと捉え直すことで、流動的な現代の都市的状況におけるネットワークのあり方を議論している点で、学術的意義がある。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to discuss the relationship between gender, helping, and cooperation around work in the capital city of Dhaka, Bangladesh. Based on ethnographic fieldwork in shopping malls, it was found that weak ties, such as neighbors, are actively used in job referrals. This is because relying on relatives can involve complex politics. New close ties are formed in the workplace. It is not only the relationships that mediate entry into the labor market that are important. Fluid relationships and workplaces turned out to be the very sites of network building that would allow for the survival of such urban life, despite the new and growing uncertainties.

研究分野：文化人類学

キーワード：バングラデシュ ジェンダー 労働 ネットワーク 空間 親族 サービス業 ショッピングモール

1. 研究開始当初の背景

当該地域では 1970 年代から 90 年代においては、農村のベンガル人ムスリムを対象とした開発研究などを中心に蓄積があり、男女の空間を分離するパルダ (*pardhā*) という規範により、女性が屋敷地を超える経済活動に従事することは例外的な現象とされた。しかし、1990 年代以降の輸出向け縫製産業の急成長を要因とし、パルダによって戸外での単独行動をすることが忌避されていた若い未婚の女性を中心に、賃金労働への参入および戸外での可視化が生じている。こうした農村から都市への経済活動の場の移行、並びにジェンダー分業の顕著な変化を捉えるために、賃金労働に従事する女性たちの仕事をめぐる解釈、実践、交渉が議論されている [Kabeer 2000]

社会変化の最中において、女性たちが新しく労働に参入するためには様々な障壁を乗り越えなければならない。そこで活用されるのが親族呼称を用いた関係のネットワークである。都市での職場や住居、さらには移住先で安定した生活を獲得するためには、女性たちは親族呼称を用いて親族、時には血縁関係にない相手とも関係を構築し、安全な場を求めている。このような非親族とのつながりは、生存や階層上昇のための有力なコネクションとして積極的に利用されうるものである [Gardner 2012 ; Kabeer 2000] 人々がネットワークに依存する背景には、ベンガルムスリムのリネージの相対的な紐帯の弱さと、国民国家の脆弱な福祉により、ソリッドな社会が想定されない不確実性に満ちた社会であるからだとされる。

このような親族・非親族をも巻き込んだ関係構築の重要性が指摘されているものの、親族ネットワークの具体的なあり方とそれを下支えする規範に関しては十分に理解されているとは言い難い。ガードナー [Gardner 2012] は、親族・非親族への扶助はムスリムの義務である「喜捨」、すなわち貧しい者への施しの概念であると指摘するが、その説明に止まっており、そこで用いられる親族呼称の意義や非親族との差異については課題として残されている。

2. 研究の目的

本研究ではバングラデシュの首都ダカを調査地とし、親族と非親族のネットワークがいかに生成され、いかに断絶されるかを、手工芸品生産工房での仕事の共同と分配の実態から明らかにすることを目的とする。対象とするのは、女性たちにとって馴染みのある家や近年の労働の場との中間的な要素を持つ手工芸品生産工房である。そこで分業や仕事の委託をめぐる共同の実態把握から、アパデュライが「遡行的遂行性」と呼ぶように、親族・非親族のカテゴリーが相互行為によって生成される過程をエスノグラフィックに理解し、関係を支える原理を明らかにする [アパデュライ 2020]

・手工芸品生産をめぐる分業のヴァナキュラーな理解

手工芸品生産における分業のあり方は、諸地域の社会関係を紐解く手がかりとされてきた。とりわけ、南アジア地域では、カーストと手仕事の分業をめぐる議論されてきた。しかし、バングラデシュにおいては、開発援助による手工芸品の商品化に関する労働関係についての議論はあるものの、ヴァナキュラーな分業や共同のあり方は明らかとなっておらず、これを明らかにすることは当該社会の社会関係に新たな知見をもたらす。

・親族関係の実践的な理解に対する貢献

当該社会における擬制的な親族関係の重要性はしばしば指摘されながらも、実践的に検

討されてきてはいない。とりわけ仕事の間を対象とするのは、血縁関係にあるものと、非血縁者を雇うこととの間に隔たりが生じると考えられるからである。こうした点を実証的に検討することは、親族・非親族のネットワークの異同とともに、親族関係の具体的な場面での利用という点から理解することにつながる。これは当該社会の理解に止まらず、親族と分配や共同の関係の理解という経済人類学全体に対する寄与することができるものと考えている。

3. 研究の方法

・現地でのフィールドワーク

バングラデシュの首都ダカにおいて、1ヶ月の現地調査を行う。調査対象は、ダカにあるシルクスカーフを制作するキリスト教徒を中心とした工房3カ所、およびカード制作を行うムスリムの製作者集団15ヶ所を対象とする。これらの手工芸品生産ネットワークを対象とするのは、いずれも特定のNGOなどに直接所属せず、女性たちが中心となって手工芸品生産を行い、仕事を得る、離れる際に人々が親族・非親族のネットワークに依存せざるを得ず、分業や委託など仕事をめぐる共同が観察されやすいからである。具体的な調査内容は、仕事場における親族、非親族の関係図を作成し、相互の呼称を調べ、図式化する。仕事をめぐる具体的な分業や委託などの協力関係を聞き取りおよび参与観察によって明らかにする。仕事場の人々、仕事を辞めた人を対象にインタビューにより、親族の関係が仕事の選定、継続、給与、その他の利益とどのような関係があるのかを聞き取る。

また、新たな労働の間としてのショッピングモールで働く人々、マネージャーたちの参与観察とインタビュー調査を行った。

4. 研究成果

ショッピングモールでの民族学的調査に基づき、仕事を紹介する際には近隣の人のように弱い紐帯も積極的に活用されることが明らかとなった。親族に頼ることは複雑なポリテイクスに巻き込まれることにもなるからである。他方、仕事場の中で新たな親しい関係が出来上がっており、労働市場への参入を斡旋することだけが重視される関係ではない。流動的な関係と労働の間は、新たな不確実性を増しながらも、そうした都市生活を生き抜くことを可能にするようなネットワーク構築の間そのものであることが明らかとなった。

また労働の間だけでなく、新たなモビリティを獲得していく様々な科学技術と接触しながら女性にまつわる空間が形成されていることが確認された。例えば、オートバイに乗って、都市や郊外を移動するヒジャブを着た女性やSNSを巧みに利用して商業活動を行う女性たちの様子である。こうした、新たなモビリティのあり方についてはさらに今後の課題とした。

(引用文献)

アパデュライ、A.2020『不確実性の人類学—デリバティブ金融時代の言語の失敗』中川理、中空萌(訳)以文社。

Gardner, K. 2012 *Discordant development: Global Capitalism and the Struggle for Connection in Bangladesh*. Pluto Press.

Kabeer, N. 2000. *The Power to Choose: Bangladeshi Women and Labour Market Decisions in London and Dhaka*. Verso.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鈴木亜望
2. 発表標題 Bangladesh のサービス業における女性性
3. 学会等名 日本南アジア学会第36回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木亜望
2. 発表標題 仕事をめぐる非親族関係とネットワーク Bangladesh のダカにおける手工芸品生産工房の女性たちの現地調査から
3. 学会等名 日本南アジア学会 第34回全国大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------